

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02273

研究課題名(和文)戦後日本における性教育実践の社会運動史研究

研究課題名(英文) Social movement history research on sexuality education practices in postwar Japan

研究代表者

及川 英二郎(OIKAWA, Eijiro)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：80334457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：性教育運動史研究としては、村瀬幸浩を中心に運動当事者複数名からヒアリングをすることができた。コロナ禍で、想定していたヒアリングの実施回数は限定的となったが、村瀬研究を中心に性教育運動の歴史として論文を準備中である。

また、自然科学中心の性教育が人文社会科学の視点を欠落させがちであるという問題点は、研究する過程で得られた新たな知見であった。「性教育」が「包括的性教育」に拡大する過渡期にあって、「性教育」と「社会科学」の関係に課題があることを確認できた。

その他、分担研究者とともに雑誌編集に関わることで、性教育をめぐる国際的動向や国内状況、授業実践の現状などを多角的に検討し公表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

性教育が忌避されてきた日本社会にあって、近年、その必要性が広く認識されつつある。本研究は、性教育を否定する保守的な動向に抗ってきた民間団体の活動を中心に、その経緯や時代背景、国際環境、教育実践の実状を多角的に検討することで、性教育の「当否」という二元化された枠組みではなく、運動する側の多様性や差異などを析出し、性教育が今後、いかにあるべきかを具体的に検討するための視座を提供した。また、ユネスコ編集の『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』をはじめ、欧米標準のテキストが、性教育を推進する側ではともすれば無批判に受容される傾向に警告を発し、グローバルに偏しない性教育のあり方を提唱した。

研究成果の概要(英文)：As research on the history of the sexuality education movement, I was able to interview several people involved in the movement, mainly Yukihiro Murase. Due to the corona crisis, the number of interviews we had planned was limited, but I am currently preparing a thesis on the history of the sexuality education movement.

The problem that sexuality education centered on natural science tends to lack the perspective of humanities and social sciences was a new finding obtained during the research process. In the transition period when "sexuality education" expands to "comprehensive sexuality education", we have confirmed that there is a problem in the relationship between "sexuality education" and "social studies".

By being involved in the editing of the magazine together with the co-researchers, I was able to examine and publish the international trends and domestic situations surrounding the sexuality education, the current state of class practice, etc. from multiple perspectives.

研究分野：性教育

キーワード：包括的性教育

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 性教育運動の蓄積と研究の空白

「人権」の視点を重視した「性教育」については、戦前から山本宣治らを中心にその重要性が強調されていた。他方で、保守的な性規範を維持する立場から「風俗の乱れ」などとして警戒される状況は、日本の大衆社会化とともに加速し、戦後、さまざまな社会現象となって注目されるにいたる。そのなかで、戦前戦中の科学者の系譜、戦後民主主義の系譜、女性運動の系譜、性的少数者の系譜などが交錯しながら、「人権」を重視した性教育運動が多面的に取り組みられてきた。その動向を牽引してきたのは、1982年に設立された“人間と性”教育研究協議会（性教協）である。同会は、学校教育の現状をふまえ、養護教諭や保健体育の教員を中心に組織された民間の性教育団体である。

こうした日本の性教育運動に関する歴史研究は、まだ緒についたばかりである。戦前からの廃娼運動や産児制限運動における性教育の歴史的研究、家族計画をテーマにした研究などはあるが、1980年代以後については希少であり、医学史や教育史全般においても事例紹介や概説的な言及にとどまる。また、社会運動史研究では、労働運動や政党運動研究が主流であり、1980年代になって、日常生活や身体・生命などを対象とした「社会史」研究が開始されたが、「性」や「医学」を対象とした研究に限定され、性教育にまでは視野が及んでいない。フェミニズム運動についていえば、その立場からの問題提起や女性史・ジェンダー史研究が、やはり1980年代以後進展するが、フェミニズム運動そのものを歴史研究の対象とする視点は、個人史研究をのぞいては僅少であり、性教育はやはり対象外である。性的少数者についての歴史研究も、近年ようやく本格化しつつある現状である。

本研究はこうした研究状況を背景に、性教協を中心とした1980年代以後の性教育実践に関する社会運動史研究をまとめるための準備作業と位置づけられる。

### (2) バッシング

この間、人権を重視した「性教育」に対して、「純潔教育」に代表される保守的な性規範を維持する立場からのカウンターアクションも深刻であった。とりわけ、1990年代から2000年代にかけての性教育バッシングは、同時期のジェンダーフリーバッシングや、歴史教育をめぐる「自虐史観」バッシングとあわせて熾烈さを極めた。その背景に、旧統一協会を中心とした宗教右派の政治的キャンペーンがあったことはよく知られている（『季刊セクシュアリティ』111号、2023「特集」参照）。また、性別分業規範が日本社会で全国的に一般化した高度経済成長期への憧憬が、経済大国としてのプライドと相まって、そうした保守的な性規範を支えるメンタリティとなっている面も見逃せない（及川「反共主義の社会的広がり」同上）。現在、日本社会で「性教育」を忌避する動向は依然として根強いが、それは「性教育」という用語そのものを拒否する旧来のステージから、「性教育」という用語を解禁しつつ、その内実を保守化するという新たなステージへと移行しつつあるように思われる。後者のステージは、「性」や「生」をめぐる世界的な権力（「生 権力」）が、より前景化したステージともいえるだろう。

### (3) 世界的な動向

「性」は個人の自己肯定感に関わる「人権」の中心的な要素の1つである。しかし、「人権」概念が19世紀以来つねに問い直されてきたように、「性」と「人権」との関係も決して一様ではない。特に、性の多様性（LGBTQ+など）に関する近年の動向は、両者の関係を根本的に問い直すものである。一人ひとりの性はさまざまな水準でグラデーションの中にあり、男女二元論や異性愛中心の見方は通用しない。今日、ダイバーシティ（多様性）に関わる社会的な要請は、そうした旧来の視点をどこまで見直すことができるのか。あるいは、性的少数者の人権は、「性」についての科学的な知見をどこまで修正し得るのか。「性」と「人権」との関係は、現在、根本的に問い直されつつある。

このなかで、世界的な動向としては、第二次世界大戦後、産児調節運動に発する家族計画協会が、早くから「産む権利」を軸に性教育を行ってきた。また、1980年代には、欧米先進諸国で広がったエイズ・パニックを契機に、性的少数者（LGBTQ+など）を含む「性の権利」を軸にした取り組みが行われている。それらは、宗教右派をはじめ保守的な性規範を維持しようとするさまざまな反動を触発しながら、上述した「生 権力」ともつねに背中合わせの関係にある点に注意しなければならない（「生 権力」については、及川『現代日本の規律化と社会運動 ジェンダーと産報・生協・水俣』日本経済評論社、2022、第1章参照）。

2009年にユネスコの『国際セクシュアリティ教育ガイダンス（初版）』（浅井春夫・良香織・田代美江子・渡辺大輔訳、明石書店、2017）が提起した「包括的性教育」は、そうした世界的な動向の最先端でもある。そして、同書を改訂版（浅井春夫・良香織・田代美江子・福田和子・渡辺大輔訳、明石書店、2020）と比較したとき、「HIV/AIDS」対策を中軸にして「包括的性教育」を論じた初版に対して、「人権」を中軸にして「包括的性教育」をより一般化させた改訂版は、その分、スケールが格段に大きくなり、さまざまな危険性もまた増大したといえる。それは、「包括的」という言葉がもつそもそもの多義性に加え、例えば「HIV/AIDS」対策の一部として初版

では構想されていた「包括的性教育」が、改訂版では「HIV/AIDS」対策を一部とする「包括的性教育」へと拡大していること、ジェンダー概念の形骸化が見られること、性に対するポジティブな姿勢という主張が、人権概念の再解釈を伴わずに行われるため、「性行為をする」ことが、他の自由権と同様の「不可欠な権利」であるかのような誤解を生み、「性行為をしたくない人」の権利が侵害される可能性があることなどである。また、「知識／態度／スキル」の使い分けがあいまいな点、「誰にでも人権はある」(改訂版 p.89)という記述と「すべての人間は...社会に貢献できる」(同 p.81)という記述との矛盾(「社会貢献」という指標によって価値序列が生まれてしまうかのような記述の問題)など、必ずしも練り込まれているとはいえない記述の数々が、ジェンダー理解や植民地主義批判、快楽の性の扱いなどとあわせて、改訂版ではより誤読されやすい態様になっていることも否定できない。それは、「生 権力」をめぐる「せめぎ合い」の新たなステージでもある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、人権教育を中心にすえた性教育の今後のあり方を展望するため、「性」と「人権」の関係がいかに理解されてきたかを、社会運動史として明らかにすることである。具体的には“人間と性”教育研究協議会を、次の2つの角度から取り上げる。

### (1) 多元的な系譜の交点

1982年に設立された性教協は、「科学・人権・自立・共生」の4つの理念を掲げて活動してきた。設立当時、性教育に関わる全国的な組織は、厚生省や医者・助産師らを中心とした日本性教育協会(JASE)しか存在しなかったなかで、教育実践者が集い学び合える場として新たに設立されたのが“人間と性”教育研究協議会(性教協)である。

性教協に結集した人脈には、戦前系の系譜から戦後民主主義の系譜、1970年代以降の新しい社会運動の系譜などさまざまである。例えば、戦前系の系譜としては、山本宣治や朝山新一ら科学者を中心とした人脈があるし、戦後民主主義の系譜としては民主教育研究所や全日本教職員組合にいたる共産党を中心とした人脈がある。また、新しい社会運動としては、田中美津らウーマン・リブからフェミニズムにいたる女性運動の系譜や、「青い芝の会」に代表される障がい者運動の系譜などが想定されよう。ここに、1980年代以後の性的少数者の系譜を加えることで、その全体像が概ね浮かび上がる。

### (2) 個々のライフヒストリー

性教協の活動スタイルとして特徴的なのは、前衛党や上位団体によって指導されるのではなく、現場の教員たちの直接的な人間関係をベースにした運動であり、全国のサークルを起点に草の根的な活動を維持し、個々の自発性が重視されている点である。その意味で、1970年代以降、「個」の視点に立った「新しい社会運動」の経験が反映されていると言えるだろう。他方で、地域や職場単位のサークル活動が積み上げられていく組織原理は、戦後各地に叢生したサークル活動の経験を引き継ぐものともいえる。本研究はまだ準備段階にすぎないが、性教協の活動を歴史的に検証するには、地域や職場を中心としたこれらサークルの活動をていねいに明らかにしていく必要がある。1982年というタイミングで同会が結成された背景についても、教育現場の崩壊といった事態とあわせて、時代状況や社会的ニーズなど、各地域の実態をていねいに検討していかなければならない。そのなかで、個々の実践者が「性」と「人権」とをいかに関係づけてきたか。その工夫や苦労の多様な足跡を具体的に明らかにすることは、「人権」や「正義」「公共性」を再定義する今日の創造的な営みの一環となるはずである。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究体制

本研究では、田代美江子・渡辺大輔・良香織の3人を研究分担者とし、研究代表者である及川が研究全体を統括する研究体制を設ける。及川はこれまで、人権およびジェンダーの視座から社会運動史研究に取り組んできた。そこで得られた成果をもとに、性教協という組織を外部から客観的に分析することができる。他方、3人の研究分担者は、性教協の活動に内部から研究者として関わり、性教育の史的研究や授業実践分析に取り組んできた。また、前述した『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の翻訳者でもあり、性教育の国際的な動向を熟知している。特に田代は欧米やオーストラリア・東アジア諸地域の性教育全般を、また渡辺と良はそれぞれ台湾と韓国の動向を把握しており、良は戦後のセクシュアリティに関するオーラルヒストリー分析にも取り組んでいる。加えて、2021年度より及川も、性教協が編集する『季刊セクシュアリティ』誌に編集委員として(2022年度より副編集長として)関わっており、外部と内部の有機的な交流が可能となった。

### (2) 研究計画

本研究では、性教育実践に関わる史資料の収集・整理を行いつつ、国内外の思想的背景や法制度の推移を整理・分析すると同時に、幼・保～社会人を対象とした現行の性教育実践の特徴を明らかにし、あわせて個々の実践者への聞き取り調査を実施する。聞き取り項目は、性教育を行うにいたった契機や背景・経歴(学習経験や家族関係等)、性教育を実践するなかでの苦労や工夫、

転機になったできごと、時代状況への認識や歴史観等である。以上の作業をふまえ、上記した4つの系譜の相互関係を時代状況に即して明らかにし、今後の性教育を人権教育の一環として展望する。

#### 4. 研究成果

上記した研究計画のなかで、授業実践の分析や聞き取り調査については、コロナ禍の影響により十分な成果は得られなかった。以下、本研究の成果としては、主に3点あげておきたい。

##### (1)性教育の経緯・背景・現状

第1に、性教育実践の社会運動史を研究するさいの課題について、及川による研究ノート『東京学芸大学紀要』に掲載した(「戦後日本における性教育実践の社会運動史研究ノート」『東京学芸大学紀要・人文社会科学系』11号70-23-35, 2019)。

第2に『同時代史研究』(第11号、2018年12月発行)に、特集「性教育」の同時代史」を組み、及川による趣旨説明とあわせて、研究分担者3名による論考を掲載した。これによって、戦後日本における性教育の歴史を、当時の文部省の動向を中心に概観すると同時に、性教育実践の今日的な課題を人権教育と性の多様性の2つの観点から整理することができた。その他、性教育実践の思想的背景について、研究分担者の田代美江子が、この間の研究動向を整理しているのに加え(「性教育」『児童心理学の進歩2020年版』59, 2020)、『季刊セクシュアリティ』101号に、性教協の「科学・人権・自立・共生」という標語の成立過程を論じている(『《科学・人権・自立・共生の性教育》と包括的セクシュアリティ教育』『季刊セクシュアリティ』101号2021)。

『季刊セクシュアリティ』100号(2021年)以降の編集過程には本研究の関係者が全員関与している。特に、性教協の標語のうち「自立・共生」については、近代的な人間観のなかで、ともすれば「依存」を排除した「自立」が前提とされやすいが、それはリベラリズムに特有の誤謬であることを批判し、本来は「自立+依存・共生」であり、そこでは今日フェミニズムの立場から重視される「ケアの倫理学」が鍵になることを論じた(田代同上論文、及川「戦争加害の歴史と応答責任」同誌102号、2021、同「意見表明権の重要性」同誌105号、2022)。今後、社会運動そのものの方向性を考える上で重要な切り口である。

その他、背景にある世界的な状況については、台湾やフィンランドの性教育について、渡辺大輔による同誌での連載記事がある(「海外情報 フィンランドレポート」「台湾レポート」)。また、良香織「性教育と法の関係を問う意義と日本の課題」(同誌94号、2020)は、同号の特集企画とあわせて、日本の法体制の現状を検討した論考である。

授業実践については、『季刊セクシュアリティ』105号(2022)をはじめ、同誌で授業実践分析を随時行っており、研究代表者および分担者が複数回寄稿している。また、研究分担者を中心に、ひきつづき足立区中学校での性教育実践を検討した。コロナ禍の影響により授業参観は限定的となったが、その成果は以下の出版活動へと反映されている。樋上典子・良香織・田代美江子・渡辺大輔著『実践包括的性教育 思春期の子どもたちに「性の学び」を届けたい!』『国際セクシュアリティ教育ガイドンス』を活かす』(エイデル研究所2022)。

##### (2)聞き取り調査

聞き取り調査は、研究期間の前半に集中して行った。2019年度は計9回、各回2時間から3時間である。まず、2019年1月17日は安達倭雅子・佐藤明子・狛潤一の3氏と及川・良による座談会形式で、性教協の歴史や性教育の課題、個々のライフヒストリーをうかがった。また、5月9日・6月19日・7月11日に1回ずつ、村瀬幸浩氏より同様のテーマで、また8月23・25日に安達氏、8月30日に佐藤氏、9月7日に狛氏からそれぞれ聞き取りを行った。内容的には、性教協の設立過程、「科学・人権・自立・共生」という標語の定着過程、「従軍慰安婦問題」や「性情報の氾濫」「エイズパニック」や2000年代に入ってから性教育バッシングの動向など、当事者としての体験談。また、組織内部の人間関係など、公的には表面化していない内部事情など、戦後日本における性教育運動の展開過程を考察するうえで重要な情報を得た。

2020年度は、金子由美子氏の性教育実践とライフヒストリーについて計2回、のべ5時間ほど実施したほか、村瀬幸浩氏の授業実践に関する追加調査を行った。村瀬氏のヒアリングについては、1980年代の時代状況や性教育実践の傾向をふまえ、「村瀬幸浩論」としてまとめる準備を進めている。

2021年度は、コロナ禍のため高齢者を対象にした聞き取り調査は控えざるを得ず、計画を変更して朝鮮学校での性教育の現状を西東京朝鮮第一初中級学校の校長・申俊植氏に、またスクール・ソーシャル・ワーカーの視点について梅山佐和氏に、性教育の観点からうかがった。これらは、『季刊セクシュアリティ』誌上にインタビュー記事として反映されている。

##### (3)人文社会科学との架橋

自然科学中心の「性教育」が、人文社会科学の視点を欠落させやすい点は、この間、この研究を通して見えてきた性教育運動の問題点であり、その歴史的経緯を整理するうえで欠かせない点である。性教協設立時においても、山本直英ら社会科教員による積極的な関与や村瀬幸浩ら体育科教員による社会的なアプローチが散見されるが、その後、いわば「失われた可能性」として忘却された感がある。これは、草創期の運動の意義を再検討するうえでも重要な視点である。

そのことをふまえ、『季刊セクシュアリティ』109号では「社会科領域でとりくむ性教育」と題して特集を組んだ（以下、及川「性教育の弱点と社会科の弱点」より修正・抜粋）。

性教育においては、その軸心は基本的に「自然科学」に置かれてきたため、「人文社会科学」との相性は必ずしも良くない。しかし、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の改訂版（2020）で強調されているジェンダーの「社会構築性」や（p.94）「生殖」に限定されない家族や性の多様性を考えるとき、「人文社会科学」の知見を避けて通ることはできない。

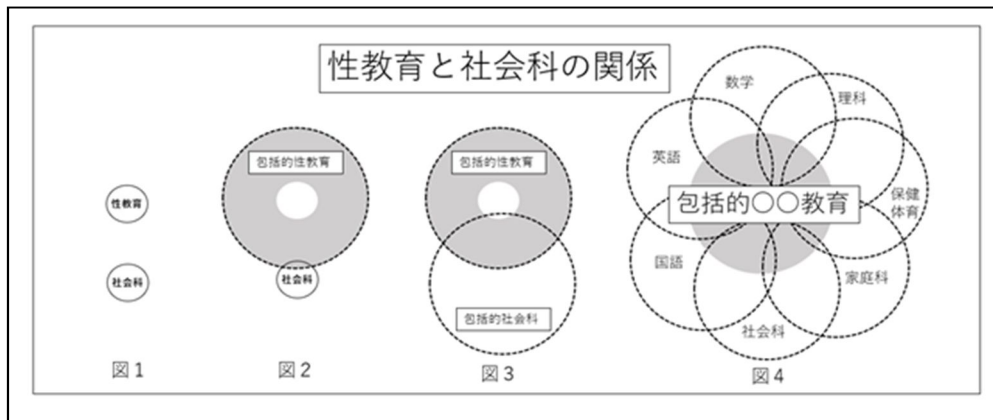


図1は、古いタイプの「性教育」と「社会科」の関係を示した模式図である。自然科学を背景にして、男女の生殖を中心に構成されてきた性教育と、人文社会科学を背景にして、中性的な個人や国家を論じてきた社会科との間には大きな隔りがある。

2009年にユネスコが提起した「包括的性教育」は、2018年（2020年翻訳）の改訂版とともに、その対象領域を拡大した。図2に見られるように、こうした視野の拡大によって、社会科との接点も見られるようになった。その間、性教協での性教育実践や、1988年に設立された「同性愛プロジェクト」の活動、1990年代に社会問題となった「従軍慰安婦」問題への取り組みなども、そうした接点を広げる包括的な試みの一環だったといえる。

しかし、これではまだ十分とはいえない。性教育に「包括的性教育」が必要なように、社会科にも「包括的社会科」が必要だからである（図3）。そして、同様のことは、他の教科についてもいえるだろう。包括的保健体育・包括的家庭科・包括的国語・包括的理科・包括的英語・包括的数学などが求められるはずである。それぞれの教科を「包括的」なものとして拡大してみれば、相互に重なり合う部分がたくさん出てくるだろう（図4）。図1から図2へと来た現在、私たちが目指すべきは、さまざまな教科が対象領域を拡大し、それが多元的に重なりあうような、つまり図3から図4へといたるような、そんな教育のあり方ではないか。その試みは、これまで当然と思われてきた教科の「らしさ」を相対化し、それぞれの教科の“中心”を複数化したり、“脱中心化”したりするだろう。（以上「性教育の弱点と社会科の弱点」より修正・抜粋）

以上のことをふまえ、109号の特集では、家庭科教育と社会科教育との座談会形式の対談に加え（國分麻里・鶴田敦子・良香織・及川英二郎「座談会 対話から見えてくる性教育の可能性ー社会科と家庭科」）、小中高の授業実践の紹介や提案、現行の学習指導要領やユネスコ編『国際セクシュアリティ教育ガイダンス（改訂版）』との対応関係をふまえたテーマ案のリストアップなど、社会科教育で何が可能なのか、また、何が性やジェンダーを軽視させるのかといった視点から問題提起を行った（良・及川「社会科領域でできる性教育」）。

また、この問題提起は同時に、性教育を推進してきた側が、人文社会科学の視点を欠落させながら「包括的性教育」を名乗るといふ、いびつな取り組みへの警鐘でもあった。『季刊セクシュアリティ』の読者にありがちなのは、性教育に携わってきたことへの自信や自負心が強いことであり、そこではともすれば、自身の「正義」や「無謬性」が前提とされやすい。同誌109号の特集は、そうした旧来の性教育運動に欠落していた視点を指摘する企画でもあったが、そうした自覚をもって受け止められた感触は少なかった。戦後日本における性教育実践の社会運動史研究をするうえで、運動当事者が抱きがちなこの「正義」や「無謬性」の感覚、社会の現状を外在的に批判し、自身の内在的な問題点と連動させて理解しようとしにくい傾向は、今後、この研究を継続するうえで重要な着眼点になると思われる。

また、性教育と人文社会科学との接点を考えるさい、1990年代に社会問題化した「従軍慰安婦」問題は重要である。性教協関係者も、高柳美知子らを中心に早くからこの問題を取り上げており、『季刊セクシュアリティ』誌上でも、及川が編集委員になった2021年以降、このテーマを積極的に取り上げてきた。その他、ウクライナ情勢をふまえ、2022年4月17日には、性教協・東京サークルの例会で及川が「戦争と性 日常と戦場の連続と断絶」と題する講演をオンラインで行った。同テーマに関する論点を整理することができたことは、「個人」や「日常」レベルに終始しがちな「性教育」を、「国家」や「非日常」レベルに架橋するうえで重要であり、社会科教育における性教育の可能性を模索するうえで寄与するところが大きいと思われる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計72件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 及川英二郎	4. 巻 102
2. 論文標題 戦争加害の歴史と応答責任：生まれる前のできごとなのに、なぜ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 56-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 申 俊植, 及川 英二郎, 艮 香織	4. 巻 102
2. 論文標題 インタビュー 朝鮮学校の現状と課題：校長先生にきく	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 102-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川英二郎	4. 巻 14
2. 論文標題 ジェンダーの視点で見る「性差の日本史」：国立歴史民俗博物館 企画展示「性差(ジェンダー)の日本史」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 82-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 艮 香織, 櫻井 裕子, 谷口 歩美, 篠原 美香	4. 巻 104
2. 論文標題 座談会 学び直そう! 月経：ジェンダー平等の課題として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良香織	4. 巻 28
2. 論文標題 国際セキュアリティ教育ガイダンスとは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 K-peace	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良香織	4. 巻 102
2. 論文標題 暴力と安全確保、そして人権	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良香織	4. 巻 100
2. 論文標題 性教育と「いのち」をめぐる教育：いのちの在りかとしてのからだ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 88-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代美江子	4. 巻 825
2. 論文標題 "今"の日本の性教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 母の友	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子, 康 憚	4. 巻 102
2. 論文標題 北京調査レポート(6・最終回)北京師範大学児童性教育プログラム開発グループの取り組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 172-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 101
2. 論文標題 《科学・人権・自立・共生の性教育》と包括的セクシュアリティ教育 (特集 性教育・性教協の「今」 : 性教協設立40年)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村瀬 幸浩, 水野 哲夫, 田代 美江子, 渡辺 大輔	4. 巻 100
2. 論文標題 座談会 『季刊セクシュアリティ』のこれまでとこれから (特集 人権を基盤とした包括的性教育を! : 創刊100号をあらたなスタート地点として)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 94
2. 論文標題 さいたまここに人あり ジェンダー平等、多様性を大事に 人権を実感として学ぶ教育を	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 さいたまの教育と文化	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 99
2. 論文標題 座談会 包括的性教育をめざす助産師の取り組みと協働の展望 (特集 助産師と包括的性教育 : サークルを基盤に、「ガイダンス」を学んで)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 16-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張 徳勝, 渡辺 大輔	4. 巻 104
2. 論文標題 台湾レポート(13・最終回)東華大學・張徳勝教授の挑戦	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 150-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 104
2. 論文標題 フィンランドレポート(9・最終回)人権と多様性の象徴、フィンランド中央図書館「Oodi」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 146-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 849
2. 論文標題 新たな領域「子どもとジェンダー・セクシュアリティ」がもつ意味 (特集 『子ども白書2021』を読む) -- (執筆者より)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どものしあわせ : 母と教師を結ぶ雑誌	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 908
2. 論文標題 教育情報(No.1153)埼玉県「性の多様性を尊重する教育」：個別配慮から人権教育へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 94-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 102
2. 論文標題 フィンランドレポート(8)フィンランドの老舗LGBT団体SETA(2)学校保健調査とトランスキッズ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 164-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 100
2. 論文標題 性教育の中の「関係性」：ジェンダーの理解と暴力に関する実践を通して (特集 人権を基盤とした包括的性教育を! : 創刊100号をあらたなスタート地点として)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 80-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川英二郎	4. 巻 13
2. 論文標題 歴史教育の課題と通史の公共性 集合的記憶と批判精神	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 16 - 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代美江子	4. 巻 2020年版
2. 論文標題 〔特別論文〕性教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藤田博康・河合優年・内藤美加・齊藤こずゑ・高橋恵子・山祐嗣編集『児童心理学の進歩』	6. 最初と最後の頁 175 - 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤 由美子 , 土井 希実 , 藤縄 郁美 , 田代 美江子	4. 巻 99
2. 論文標題 座談会 包括的性教育をめざす助産師の取り組みと協働の展望 (特集 助産師と包括的性教育 : サークルを基盤に、「ガイダンス」を学んで)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 16-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 94
2. 論文標題 さいたまここに人あり ジェンダー平等、多様性を大事に 人権を実感として学ぶ教育を	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 さいたまの教育と文化	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 97
2. 論文標題 海外情報 北京調査レポート(4)流動児童のための小学校における性健康教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 134-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 74(7)
2. 論文標題 いま必要な「性教育の指導法」とは? : 知識の伝達から行動の変容へ (今月の臨床 若年女性診療の「こんなとき」どうする? : 多彩でデリケートな健康課題への処方箋) -- (性・性活動)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床婦人科産科	6. 最初と最後の頁 691-696
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 95
2. 論文標題 第38回全国夏期セミナー近畿大会in京都 理論講座(2019年7月28日)「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」を実践につなげるために (特集 性教育実践2020 : 包括的性教育に向かって)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 96
2. 論文標題 海外情報 北京調査レポート(3)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 132-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原 美香 , 光 真志 , 田代 美江子	4. 巻 96
2. 論文標題 ・鼎談 性をポジティブに語るために必要なこと (特集 包括的性教育を実践する力をつける)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 20-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 99
2. 論文標題 フィンランドレポート(7)フィンランドの老舗LGBT団体SETA(1)教育への働きかけ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 176-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 特集 性のゆらぎを抱えた子どもとの関わり方 性の多様性について、子ども若者支援の現場から考える 遠藤 まめた	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心とからだの健康 : 子どもの生きる力を育む	6. 最初と最後の頁 12-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 76(1)
2. 論文標題 「性の多様性」が学校や教育に問うもの (特集 教育はいま : 「知」の構造を問う)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 98
2. 論文標題 海外情報 台湾レポート(10)臺北市政府教育局による性別平等教育の取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 144-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 98
2. 論文標題 海外情報 フィンランドレポート(6)hivpointのセクシャリティ教育キットボックス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 140-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡 洋子 , 坂田 和子 , 渡辺 大輔	4. 巻 98
2. 論文標題 対談 子どもの生活現実から共にジェンダー/セクシュアリティを問い合う学び、とはどういうことか (特集 生活から「性の多様性」を学ぶ : 子ども、学校、家庭、地域)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 98
2. 論文標題 なぜ「生活」から「性の多様性」を学ぶのか (特集 生活から「性の多様性」を学ぶ : 子ども、学校、家庭、地域)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 97
2. 論文標題 海外情報 フィンランドレポート(5)hivpoint(旧HIVサポートセンター)の現在	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 130-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 97
2. 論文標題 台湾レポート(9)みんなでピンクのマスクをしよう (コロナ危機とセクシュアリティ)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 126-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 68(3)
2. 論文標題 「性の多様性」から考える教室・学校・社会 (特集 多様性を認める学級づくり)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 244-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 95
2. 論文標題 第38回全国夏期セミナー近畿大会in京都 基調報告(2019年7月27日) いつでも どこでも だれでも 大切にされる性の学び：あらゆる暴力をのりこえる 包括的性教育の希望 (特集 性教育実践2020：包括的性教育に向かって)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 144-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋上 典子, 佐藤 卓, 渡辺 大輔	4. 巻 96
2. 論文標題 対論 性を「ポジティブに捉える」とは：男女共修での月経・射精の学習を通して (特集 包括的性教育を 実践する力をつける)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 36-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良香織	4. 巻 356
2. 論文標題 さまざまな家族と暮らしを考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 家庭科研究, 家庭科教育研究者連盟	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小原 一馬, 丸山 剛史, 出口 明子, 岡澤 慎一, 良 香織, 三石 初雄	4. 巻 7
2. 論文標題 教員養成カリキュラムによる学びの実感と学び方の変遷 宇都宮大学教育学部卒業生調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良香織	4. 巻 703
2. 論文標題 幼児期の性教育で大切にしたいこと, ちいさいなかま	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 全国保育団体連合会	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 93
2. 論文標題 『改訂版国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の中の「情報通信技術 (ICTs) の安全な使い方」 (特集 SNS と性に向き合う)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 92
2. 論文標題 インタビュー 東京都の子どもたちに性教育を届けるために：外部講師派遣の可能性と課題 (特集 「性教育の手引」(東京都)の到達点と課題)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 66-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 73(5)
2. 論文標題 「性の権利」保障を実現する包括的性教育：『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の目的、意義とその概要 (特集 子どもを取り巻く現状に即した性教育とは)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 助産雑誌	6. 最初と最後の頁 348-353
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 91
2. 論文標題 包括的性教育実現に向けて協働が必要なわけ：「性の学び」の協働を進めるためのポイント (特集 今こそ性の学びの協働を！)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代 美江子	4. 巻 89
2. 論文標題 東京都「性教育(中学校)の実施状況調査」結果を読む (特集 東京都における性教育をめぐる新たな動き)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 490
2. 論文標題 性の多様性を前提に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 女性のひろば	6. 最初と最後の頁 41-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 93
2. 論文標題 うちの地域の「性教育の手引き」ってどうなってるの? 連載スタートにあたって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 92
2. 論文標題 鼎談 国際的視点からみた都教委「性教育の手引」の到達点と課題 (特集 「性教育の手引」(東京都)の到達点と課題)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 20-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 巻 91
2. 論文標題 学校での学びを支える教育行政と地域団体の「協働」: 倉敷市「性の多様性」に関する教育を事例に (特集 今こそ性の学びの協働を!) -- (学校での学びを支える教育行政と地域団体の「協働」: 倉敷市「性の多様性」に関する教育を事例に)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良 香織	4. 巻 94
2. 論文標題 座談会 性教育と法の間を問う意義と日本の課題 (特集 性教育と法の間が丸ごとわかる事典)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 26-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良 香織	4. 巻 94
2. 論文標題 実践の方向性を確認するにあたって知っておきたい法 (特集 性教育と法の間が丸ごとわかる事典)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sexuality	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良 香織	4. 巻 772
2. 論文標題 人権教育としての性教育を実践して (特集 多様な性がともに生きる社会へ)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良 香織	4. 巻 103
2. 論文標題 子どものセクシュアルヘルス・性教育と「子どもの権利条約」 (特集 「子ども」が消える!? : 子どもの権利条約30周年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間と教育	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良 香織	4. 巻 19
2. 論文標題 教育行政と教育現場との問題 (シンポジウム 性教育,何をどこまで教えるべきか)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人権教育研究	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川 英二郎	4. 巻 71
2. 論文標題 規律化とジェンダー : 現代日本社会運動史研究序説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. II	6. 最初と最後の頁 11-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川英二郎	4. 巻 Vol.70
2. 論文標題 戦後日本における性教育実践の社会運動史研究ノート	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. II	6. 最初と最後の頁 23 -35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 及川英二郎	4. 巻 11
2. 論文標題 「性教育」の同時代史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 34-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代美江子	4. 巻 814
2. 論文標題 包括的な性教育の可能性を拓く - 性教育は「学習指導要領の枠内」でもできる -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 健康教育	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代美江子	4. 巻 89
2. 論文標題 東京都「性教育（中学校）の実施状況調査」結果を読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田代美江子	4. 巻 11
2. 論文標題 戦後日本における「純潔教育」克服の課題 未だなされていない性教育への転換	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小谷教子, 松岡依里子, 富田道子, 良香織, 石垣 和恵, 齋藤美保子	4. 巻 31
2. 論文標題 中学校、高等学校、大学の「共生・人の多様性理解」を促す学習についての実証的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 敬愛大学国際研究	6. 最初と最後の頁 67-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良香織	4. 巻 89
2. 論文標題 東京都「性教育の手引」改訂作業への提言作成にあたって（特集 東京都における性教育をめぐる新たな動き）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良香織	4. 巻 11
2. 論文標題 人権教育としての性教育に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 51-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺大輔	4. 巻 89
2. 論文標題 子どもたちに目を向けた「手引」にするために 東京都教育委員会「性教育の手引」の問題点と改訂への提案	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺大輔	4. 巻 874
2. 論文標題 教育課程と「性の多様性」 フィンランド・台湾の現状からみる課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 45-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺大輔	4. 巻 132
2. 論文標題 性的マイノリティの子どもたちの現状と支援の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺大輔	4. 巻 86
2. 論文標題 海外情報 台湾レポート(8) 台湾における「性別平等教育」の現在 性別平等教育協会に聞く	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 156-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺大輔	4. 巻 86
2. 論文標題 「教育実践」を積み重ねるとのこと 「キーワード51」にみる「積み重ね」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺大輔	4. 巻 11
2. 論文標題 国連・ユネスコにおける性の多様性教育の位置づけからみる日本の教育の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田代美江子、渡辺大輔
2. 発表標題 学習指導要領の問題点と包括的性教育実践の可能性
3. 学会等名 第37回日本思春期学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋幸子、上原美子、木村環、金子由美子、田代美江子、鈴木幸子
2. 発表標題 埼玉県における性教育のひろがりと十代の人工妊娠中絶率 - 外部講師も活用した他職種連携による埼玉県の性教育のひろがり
3. 学会等名 第37回日本思春期学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 良香織、田代美江子、張莉、堀川修平、渡辺大輔
2. 発表標題 ラウンドテーブル 「ジェンダー・セクシュアリティの視点から見た包括的性教育実践」
3. 学会等名 日本教育学会第77回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計23件

1. 著者名 浅井 春夫、安達 倭雅子、良 香織、北山 ひと美、 “人間と性” 教育研究協議会乳幼児の性と性教育サークル	4. 発行年 2021年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 乳幼児期の性教育ハンドブック	



1. 著者名 浅井 春夫, 良 香織, 酒本 知美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 299
3. 書名 愛児の家史料 第1期,4巻	

1. 著者名 浅井 春夫, 良 香織, 酒本 知美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 614
3. 書名 愛児の家史料 第1期5巻	

1. 著者名 ロビー・H.ハリス、マイケル・エンバーリー、上田 勢子、浅井 春夫、良 香織	4. 発行年 2021年
2. 出版社 子どもの未来社	5. 総ページ数 84
3. 書名 図書館版 8歳からの性教育の絵本 とってもわくわく！するはなし	

1. 著者名 良 香織、柿崎 えま	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 48
3. 書名 考えよう！人間の一生と性（人間と性の絵本）	

1. 著者名 良 香織、柿崎 えま	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 48
3. 書名 性は人権なの？（人間と性の絵本）	

1. 著者名 田代美江子、埴季代子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 191
3. 書名 マンガ アイはあるの？：「性」について考えてみよう、話し合ってみよう！：SEXUALITY COMICS	

1. 著者名 田代美江子、せべまさゆき	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金の星社	5. 総ページ数 32
3. 書名 あかちゃんは どこから くるの？	

1. 著者名 上村 彰子、田代 美江子、大久保 ヒロミ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 160
3. 書名 安全、同意、多様性、年齢別で伝えやすい！ ユネスコから学ぶ包括的性教育 親子で考えるから楽しい！ 世界で学ばれている性教育 1時間で一生分の「生きる力」3	

1. 著者名 レイチェル グリーナー、クレア オーウェン、良 香織、浦野 匡子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 32
3. 書名 ようこそ！あかちゃん	

1. 著者名 ユネスコ、浅井 春夫、良 香織、田代 美江子、福田 和子、渡辺 大輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】	

1. 著者名 浅井春夫 / 良香織	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 親子で話そう！性教育	

1. 著者名 レイチェル グリーナー、クレア オーウェン、良 香織、浦野 匡子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 32
3. 書名 ようこそ！あかちゃん	

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 発行年 2019年
2. 出版社 子どもの未来社	5. 総ページ数 95
3. 書名 マンガワークシートで学ぶ多様な性と生 : ジェンダー・LGBTQ・家族・自分について考える	

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 「若者 / 支援」を読み解くブックガイド	

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 17
3. 書名 アクティベート教育学 現代の教師論	

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 32
3. 書名 クィア・スタディズをひらく1 アイデンティティ, コミュニティ, スペース	

1. 著者名 良 香織	4. 発行年 2019年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 17
3. 書名 子ども家庭福祉	

1. 著者名 良 香織	4. 発行年 2019年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 10
3. 書名 子ども家庭支援論：家族の多様性とジェンダーの理解	

1. 著者名 良 香織	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 10
3. 書名 教育の最新事情がよくわかる本2020	

1. 著者名 浅井 春夫、良 香織、鶴田 敦子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 性教育はどうして必要なんだろう？	

1. 著者名 渡辺 大輔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 224
3. 書名 性の多様性ってなんだろう？	

1. 著者名 池谷 壽夫、田代 美江子、橋本 紀子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 181
3. 書名 教科書にみる世界の性教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田代 美江子 (TASHIRO Mieko)  (40297049)	埼玉大学・教育学部・教授  (12401)	
研究分担者	渡辺 大輔 (WATANABE Daisuke)  (00468224)	埼玉大学・教育機構・准教授  (12401)	
研究分担者	良 香織 (USHITORA Kaori)  (10459224)	宇都宮大学・教育学部・准教授  (12201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------